

### 第3章 八王子の環境の現状と取り組み

#### 第1節 水環境の保全 — 清らかな流れを求めて —

##### 1. 水環境の現状

本市は、多摩川水系の16河川の源流があり、多くの湧水や沢など水環境に恵まれたまちです。そして、公共下水道整備が完了したことで、20年度から河川の水質（BOD）の環境基準を達成しています。

一方、都市化による森林や農地の荒廃や減少、宅地化や市街地化などの結果として、雨水が浸透する機能が低下したことで、湧水の枯渇や河川水量の減少、瀬切れなどが顕著となり、水循環機能の低下が指摘されています。

市では、17年度から雨水浸透施設および雨水貯留槽の設置に係る補助事業を開始し、これまで1,517基の雨水浸透ますと753基の雨水貯留槽に補助してきました（25年度末）。また、湧水ネックレス構想の8ヶ所の湧水のうち4ヶ所において、市民との協働による湧水の保全と水辺の活用を課題とした取組を進め、湧水のかん養域における雨水浸透の推進と湧水地の保全のための整備を行ってきました。さらに、水源地においては、森林再生事業や花粉の少ない森づくり事業により森林の循環も進みつつあります。

今後は、市街地や宅地における雨水浸透を促進する取組や、湧水、水路などの水辺をまちづくりに活用する取組をすすめるとともに、里山や森林の保全による水源域の機能回復の取組が重要となります。

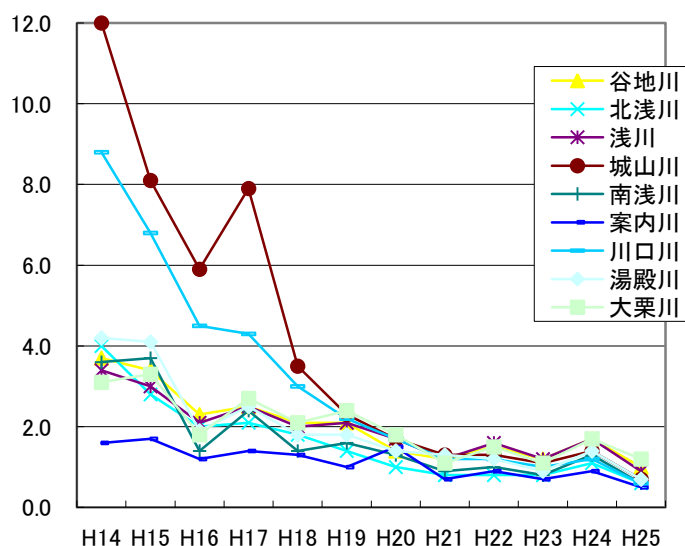
市内河川BOD75%水質値※注1・2

(単位：mg/l)

河川名	測定地点	75%水質値	環境基準 ※注3
谷地川	下田橋下	1.0	○
浅川	中央道北浅川橋	0.6	○
	長沼橋下	0.9	
城山川	五反田橋	0.7	○
南浅川	横川橋	0.6	○
案内川	御室橋	0.5	○
川口川	川口川橋	0.6	○
湯殿川	春日橋	0.7	○
大栗川	東中野橋	1.2	○

○：基準達成、×：基準未達成

BOD年間平均値の推移



※注1 BOD：有機物による河川の汚染度を示すもので、数字が大きいほど汚れが著しい。

※注2 BOD75%水質値：BODの環境基準の達成状況を見るもので、n個の日間平均値を数値の小さいものから並べたとき0.75×n番目にくる数値。

※注3 環境基準：人の健康を保持し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい目標。

## 2. 水環境保全の取り組み

### (1) 水質改善

河川の水質をより良好にするため、公共下水道への接続促進や浄化槽整備区域の浄化槽の設置促進を含めた生活排水対策に取り組むとともに、工場や事業場等の排水指導を行っています。

#### ア. 生活排水対策の推進

##### (ア) 公共下水道への接続促進等

公共下水道への未接続家屋に対しては広報等のPR活動や戸別訪問を行うことで、接続促進活動を行ってきました。下水道接続促進強化期間は23年度に終了しましたが、きめ細やかな市民対応と接続促進を引き続き行っていくために、相談窓口を水再生課に開設しました。

戸別訪問等による接続促進を行い、25年度末の接続率は97.5%となりました。

また、公共下水道整備地区以外の市街化調整区域では、戸別浄化槽の設置促進活動を行い13基を設置し、合併処理浄化槽の引き取りと併せ合計で378基の合併処理浄化槽を市管理としました。

北野処理区の一部は、雨水・汚水を共に処理する合流式下水道となっていることから、多量の雨が降った場合には未処理水が河川に流出してしまいます。そこで、市では「合流式下水道改善計画」を策定し、河川に流出する夾雑物を削減するため、雨水吐室5ヶ所に夾雑物除去施設を設置しました。

また、雨水吐口2ヶ所、北野下水処理場2ヶ所で河川放流水の水質検査を実施した結果、すべての検査項目で基準値を下回っていることを確認しました。

##### (イ) 家庭から排出される汚れの削減

公共下水道接続の推進と市設置型浄化槽の整備による水質のさらなる向上、適切かつ効率的なし尿収集・処理体制を確立するため「八王子市生活排水処理基本計画2014」を策定し、今後10年の取り組み目標を明らかにしました。

また、八王子に清流を取り戻す市民の会では昨年度から行っていた水辺の調査結果をまとめ「八王子の水辺—八王子 河川16 川のまち—」を発行しました。



湯殿川での調査

#### イ. 工場・事業場への対応

市は水質汚濁防止法や都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）に基づく届出の事前審査や指導を行い、水質汚濁の未然防止に努めています。また、工場および事業場への立入検査を実施し、届出の内容、排水処理施設の状況、排水基準の遵守状況を確認しています。

水質検査を伴う立入調査結果（25年度）

立入 事業場数	水質検査 回数	行政措置	
61	32	行政指導	3件
		改善命令	0件
		排水の一時停止命令	0件

#### ウ. 水質の監視

市では河川や地下水の水質汚濁の防止を図るため水質測定を行っています。

市内の河川は毎月8ヶ所の環境基準点と1ヶ所の環境測定地点で測定を行っています。平成20年度以降すべての測定地点でBODの環境基準を満たしており、有害物質も検出されていません。また、地下水については、水質汚濁防止法に基づき東京都が定めた水質測定計画によ

り水質測定をしています。市内を20ブロックに分け1年に5ブロックごとの水質測定（概況調査）を行っています。

25年度の概況調査において、全ての地点で環境基準を達成しています。

## (2) 健全な水循環の再生

地下水のかん養を図り河川流量を確保するため、雨水浸透施設等の設置を進め、健全な水循環を回復する取り組みを進めています。

### ア. 公共事業における雨水貯留・雨水浸透対策

道路事業では、雨水排水施設を整備するにあたり、地盤の保水機能を確保できる透水性舗装を実施しています。25年度は御所水通りなど13ヶ所で透水性舗装、市道川口42号線で透水性舗装および浸透トレンチ、浸透人孔を設置しました。

また、六本杉公園などに透水性舗装および浸透トレンチ、浸透ますを、第二中学校などに浸透トレンチおよび浸透ます、浸透U型側溝を設置しました。

項目	年度		
	H23	H24	H25
透水性舗装面積 (㎡)	2,208	6,597	8,472
浸透トレンチ (m) ※注4	1,168.5	1,855.7	430.2
浸透ます (基数)	37	34	135
浸透人孔 (基) ※注5	1	3	7
浸透U型側溝 (m)	137.9	90	155.6

※注4 浸透トレンチ：雨水浸透ます等と連結した浸透性の管。雨水を導き、側面及び底面から地中へ浸透させる施設

※注5 浸透人孔：浸透性のあるマンホール



六本杉公園（子安町二丁目）は、池周辺の園路の拡幅や、湧水に触れる場所を整備しました。また、園路は、透水性舗装で整備しました。

### イ. 雨水浸透施設等設置補助事業

健全な水循環に向けて、建物の屋根に降った雨水を地中に浸透させやすくする雨水浸透ますと浸透トレンチの設置や、雨水を植木や庭への散水に有効利用できる雨水貯留槽の設置に補助をしています。

項目	年度			
	H23	H24	H25	
雨水浸透施設	浸透ます(基数)	298	89	137
	浸透トレンチ(m)	7.4	6.0	113.9
雨水貯留槽(補助基数)	123	91	102	

### ウ. 地域と連携した湧水等保全・活用事業

身近な水辺を保全・活用し、地域の魅力を高める取り組みとして、八王子駅南口周辺、叶谷・泉町湧水群周辺、中野地区、川口町西部地区で、「身近な水辺の復活10年プロジェクト」を展開しています。昨年度は、八王子駅南口周辺で六本杉公園リニューアル工事における水辺整備を行い、叶谷榎池・泉町湧水群周辺では榎池の湧水地を整備、中野地区では地域連絡会での意見交換や雨水浸透の強化地区の設定を行いました。また、川口十二社弁天池では、一年を通して外来種（アメリカザリガニ等）の駆除を行うとともに、谷戸の休耕田の水張りを前年度に引き続き行いました。叶谷・泉町湧水群の湧水量保全のための雨水浸透強化地区では、市民の協力で11基の雨水浸透ますを設置しました。

### (3) 生態系に配慮をした水辺づくり

六本杉公園では、親水性などを高めるとともに、湧水の湧き出し口の整備を行いました。

叶谷榎池の整備については、現状の景観をできるだけ残し、湧水の湧出に影響を及ぼさないこと、シンボルとなっているエノキの保全を図ることなどに配慮をしました。

また、生態系豊かな水辺整備として、南大沢川（元八王子町二丁目）の改修に着手し、宮嶽川では、整備方針の基礎資料とするための水辺保全基本調査等を行いました。



シンボルのエノキを保全し、かつて洗い場として利用されていた水辺の整備などを行った叶谷榎池（叶谷町）

## 3. 評価

環境基本計画に掲げた5つの重点取り組み（水、みどり、ごみ・資源、地球温暖化、教育・学習）では、分野ごとに毎年度目標を立て、事業を進めています。その目標に対しての達成度や貢献度の評価結果を3段階の★印で示すとともに、市内部での総括評価および環境推進会議での相互評価を行っています。ここでは、「水」の分野についての評価結果を掲載します。

#### 3段階の★印の評価

- ★ 今後、努力が必要
- ★★ ほぼ目標を達成した
- ★★★ 大きな成果をあげた

評価：★★ ほぼ目標を達成した

#### <市内部での総括評価>

親水性や自然に配慮した水路整備については、概ね当初目標を達成しており、湧水ネックレス構想の実現に向けての整備も進めることができた。

また、雨水貯留槽の設置も目標基数を上回ることもできた。

一方で、雨水浸透施設の設置促進については、PR方法について検討が必要となっている。

#### <環境推進会議での相互評価>

雨水貯留槽の設置については成果を上げられたが、雨水浸透施設の設置については手法についてしっかり検討していただきたい。

また、生活排水対策では、公共下水道への100%接続が達成できていないことから、河川環境の向上のためにも引き続き接続促進に努めていただきたい。

なお、親水性や自然に配慮した水路整備については、湧水ネックレス構想の実現に向けて更なる整備推進を図っていただきたい。